

新装開店！！（祝）

「とにかく汚い！」「臭い」「ゴミ部屋」「ゴキブリさえ住まない・・・」と絶賛・賞賛の嵐であり、注目の的であった1階の住民に衝撃が走った！！

某7月24日（火）、朝いつもの様に学校へ戻ってくる某氏が目にしたものは・・・「わぁ！姉さん掃除している」「めっちゃ綺麗や～♡（部屋ね）」。以前に姉さんにお掃除の契約をお願いしていた1階の住民たち。あまりの汚さと掃除の手ごたえに狂喜乱舞する姉さん！某氏も加わりお掃除お掃除。しばらくすると他の研究室ながら頻繁に出入りする傭兵リカルド東郷氏と東郷氏より出現回数おとこの少な

いレアキャラ（有言無実行兵）菊原氏が登場。両氏も驚愕！東郷氏「何で、姉さん・・・引く手あまたでしょう～（結婚）。なんで・・・（黙）」、菊原氏「すげ～これで（研究の）能率2～3倍になりますわぁ」と口だけのお調子者発言。その後、リカルド氏はカメムシの世話へと旅立った。残された3人は、見違えるような部屋に感謝感激（？）床まで磨いていただいて～。これからはスリッパに履き替えないとね～。

1階が綺麗になったとの噂は忽ち研究室内に広がり、見学者の雨霰。畜産資源の（長澤まさみこと）金嶋さんと竹内さんは「息ができる～！！！！！！」と。

とても素直な感想。ゴキブリも元気に現れ・・・どれくらいでもとに戻るのか・・・。こうご期待



光ってます！



台所もピカピカ



某兵もきれいになった！？

追記：夏は、クーラーとの戦いが・・・。

文責：C



祇園祭と薙刀鉢

目次：

システム農学会 2
打ち上げ

「ネパールに行ってきた 2
した」

～広岡先生の随筆③～ 3
運をつかむ

Welcome to 畜資 4
～ゲストへインタビュー～

研究紹介⑤ 5

暑気払いと歓送迎会 5

お知らせ 6

放牧に願いを☆～Amazing Grazing～

Episode 1

それは2007年5月21日（月）のことだった。放牧試験の計画も立て、道具もそろえ、準備万端で放牧試験を行うパドックに熊谷先生、大石先生と僕で向かった。僕は卒論の試験の期待も少なからず持っていた。しかし、そこで僕らの目に飛び込んできたのはきれいに草が刈り取られたパドックの姿であった。一同驚きはしたが、「いや、まだいける！」という強い気持ちで試験の作業に取り掛かった。後に悲劇が待っているとも知らずに・・・。

僕たちは最初に刈り取られていた草の山をパドックからどけ、それから植生調査に入った。そこから大石先生の植生調査の説明が始まったのであるが、僕は初めての体験、大石先生も久しぶりということで大石先生の講義にも熱

が入る。しかし、このとき三人の体に異変が起こっていた。三人とも鼻がぐずづいていたのであった。それでも僕たちは汗をながしながら続けた。

調査を始めて1時間ほど経ったところで、熊谷先生はなぜパドックの草が刈られていたかを確認するために一旦パドックから研究室に戻られた。それから15分程して、パドックに戻ってこられた熊谷先生の口から衝撃の事実が、作業をしていた僕らに告げられた。

「ここは除草剤がまかれているようだ・・・。」

このときの僕らの驚きはすさまじかったことは、みなさんも想像に難くないだろう。これが世に言う「畜資のブラックマンデー2007」である。これによって僕が卒論を放牧試験で書く可能性は銀河のかなたに消えうせたのであった。(K)

カラ梅雨が一転して豪雨をもたらし、強い台風4号が日本列島を直撃、新潟中越沖では2年半前の悪夢をよみがえらせる大きな地震・・・と、7月前半は、梅雨のどんよりした空通り重苦しく過ぎました。下旬に入り、ようやく梅雨も明けて、祇園祭は雨に打たれずに人ごみにもまれました。鴨川を上から眺めると、魚が泳いでいる姿が見えるほどに水が澄んでいます。空には夏の雲が広がり、いよいよ夏本番といった感じですね。糺の森（下鴨神社）では、何万もいるのではないかと思わせるようなセミの鳴き声が、暑い夏を演出しています。

システム農学会打ち上げ

去る7月12日木曜日夜、システム農学会春季大会の打ち上げをしました。学会自体は5月末に行われたので随分間があいてしまいましたが、夏休みに突入する前によく行うことができました。お店は農学部西すぐそこにある『暖包』。このお店は前を通るたびに目に付くその怪しげな外観とお手ごろな価格で満足できるという情報で、以前から私が気になっていたところでした。全員座れるか?と疑ってしまうほどこじんまりとしたスペースに案内され、ビールをピッチャーで何個か注文して、広岡先生から学会の運営補助への慰労のお言葉をいただき、、、カンパイ!! アジア料理の味付けやスパイスがきいたおいしい料理をつまみながら、魅力ある研究室や、先生のお子さんの恋の行方



などについてワイワイと、そして真剣に語りました。ポニーピンク似のお姉さん(多分年下ですが...)をはじめ、愛嬌いっぱい店員さんがいたり、マンモスの肉(疑)を使っているという、ウワサのマンガ肉がでてきたり、そのときの気分に合わせてなかなかエンターテイメント性の高いオリジナルカクテルを作ってくれたり、ほぼ時間無制限にお店に居座らせてくれたりと、実に楽しい時間(お店)でした。あの密着スペースも、皆で盛り上がるにはよかったのかもしれませんが、どちらかというと学生向きのお店かと思っていましたが、広岡先生がとっても気に入ってくださったようで、店を選んだだけとは言えイベント係としてはほっと一息です。(金島)



「ネパールに行ってきました。」

つい先月号に大人気連載「中東に行ってきました」が終了したところですが、皆さんの復活を望む声に答え、早くも新連載が今月から始まりました。他雑誌から引き抜きの噂もあるとかないとかの畜資海外特派員・椎野が今回お届けするのはネパール訪問記。今度の海外渡航は観光では無く、あくまでも研究目的なので少しおカタ目にお届けしたいと思います。

水牛の肉利用・・・国民の大多数がヒンドゥー教徒であるために、神の使いである牛はネパールでは肉利用しません。そのかわり悪魔の使いとされる水牛を食べる習慣があり、水牛肉の消費は肉全体の約65%に達すると言われています。しかし、その肉として利用する水牛は役畜の廃用牛だったり、病気や高齢で淘汰されたものがほとんどであると言われており、未だ肉生産のための水牛飼養はあまり試みられていないようです。そのことから今回は、「ネパールにおいて、弱齢で美味しい水牛肉を効率よく生産しよう」という目的を持ち、現地の大学の先生と実現可能な試験について話し合いに行ってきました。



ヒンドゥー文化・・・カトマンズでは、ヒンドゥーの文化を紹介する博物館に訪れました。そこで仏像や彫刻を見て思うのは、なんて自由なんだろうという事。日本の仏像には、如来や菩薩、仁王など様々なバリエーションはありますが、ヒンドゥーのそれは日本と比べ物にならないほど多様多彩で、こんなのアリか! ?という物がたくさんありま



す。寝そべる奴隷(?)の上で踊り狂うありえない体制の神様や、牛の上で立ちながら妻神様と絡みあう破廉恥な神様などなど・・・どこか神々しい雰囲気や、世帯の僕らとは明らかに一線を画す様を見せる日本の如来像とは違い、ヒンドゥーの神様達はどこか世俗的で人間的味わいが感じられます。宗教的建造物の建築様式も日本と似ているようで似ていない、どこか不思議な味わいで見ていて楽しいですね。



気候・・・ネパールと言えばヒマラヤ山脈の麓というイメージが強いため、高原的気候で国全体が涼しいような雰囲気や想像しますが、実はネパールの南部は平野部で標高も300m前後しかなく、亜熱帯性気候で非常に蒸し暑く、5月頃には40度を超す事もあります。田端さんが現在フィールドとしているランプールという村は、まさしくそのタライ平野に存在し、僕が訪れたのが7月の雨季ということもあり、スコールと呼ばれる激しい雨が度々降り注ぎました。そのぶん、マンゴーやバナナなどの美味しいトロピカルフルーツがとても安く手に入れる事ができます。日本で数千円という法外な値段のマンゴーなんて糞食らえ!と思うほど甘くてジューシーで美味しかったです。首都のカトマンズの標高は1400mほどなので、ランプールと比べはるかに涼しく、空気もカラッと乾いていて暮らしやすいです。でも盆地であるためか、排気ガスや粉塵が大量に撒き散らかされ、空気は正直汚れていました。。



「ネパールに行ってきました。」次号に続く



好評連載 “広岡先生の随筆”

③運をつかむ



人の人生は運と不運の連続の中にある。そのような中で、いかに多くの運をつかみ、不運を避けるかが最も重要な人生のコツと言える。そのことは、換言すれば、いかに幸運の女神に好かれるかということでもある。幸運の女神という呼び方はいかにも非科学的であるが、確かに幸運の女神がいるのではないかと思える時がある。



よく言われていることであるが、幸運の女神は、努力する人がお好みである。たとえ不幸な境遇にあらうとも確固たる目的を持ち、その目的を目指して一生懸命に生きている人を幸福の女神は好み、幸運をもたらしてくれる。同じことをしてもそれが成功するか失敗するかは、時の運である。我々研究者においても、同じように遅くまで残り、日々実験をしても理想的な結果が得られることもあれば、まったく意味のない結果しか得られないこともある。意味のない結果しか得られなかった時には、それまでの努力が水泡と帰すことになる。そのようなときに、人は大きな虚しさに襲われる。

まったく主観的な経験論であるが、成功と失敗を決定づけているのは、その人の才能や能力だけでなく、その人がいかに努力し、情熱をもってその仕事に関わってきたかではないかと思えてならない。最近の若い人の間では、最少の努力で最大の成功を得ることに価値をおき、そうすることを誉め讃える傾向がある。すなわち、楽して簡単に成功することが最も格好が良く、努力して苦勞して成功を得ることはむしろ格好の悪いことのように考える風潮がある。人によっては、努力しない生き方を理想とし、いかに努力していないかを自慢するものまでいる。しかし、私から言わせれば、このような考え方は、最悪の考え方で、最も幸運の女神に見離される考え方である。もし、そのように考えているならば、すぐに捨てるべきである。

このことは一見非科学的に見えるが、根拠のあることである。一般に年配の人は努力している人を評価する傾向が強い。この厳しい競争社会で生き抜いてきた人ほど、自分も努力してきたであろうし、努力している人を好むものである。特に、恵まれない境遇の下で、くさらず、一生懸命に仕事をしている人を何とか助けたいと考えるのは人の世の常である。競争の中で1人を選ぶ時、同じレベルの人が2人いれば、当然、楽をして仕事をしている人よりも、努力している人を選びたくなる。その連続の中で、努力する人が選択され、生き残り、成功者になるチャンスに恵まれる。「お天道様が知っている」という言葉があるが、どこかでちゃんと努力を見て、評価してくれる人はいるものである。何度も繰り返すが、くさらず、努力を続けていれば報われる確率は高くなる。後に人生を振り返ったときに、幸運の女神に微笑まれたと実感することになる。

努力をしない人の言い分を聞いてみると、どうせ努力しても努力しなくても結果は同じだからというものがある。確かに多くの仕事の中では、それが終われば、見かけ上は同じように見えるものは多い。しかし、努力してなされたものとそうでないものは明らかに異なる場合もまた多い。特に、創作物を制作するような仕事に関してはその傾向が強い。芸術品もそうであるが、我々の研究も得られた成果の出来不出来はそれに費やされた作者(著者)の時間と情熱、努力に比例していることが多い。同じように見えるものでも、不思議と時間をかけ、努力の上で制作された(執筆された)ものは、深みがあり、人の心を揺さぶる。よく例に挙げることであるが、黒沢明監督の映画が見るものに感動を与えるのは、黒沢明監督の作品に対する情熱と努力が人々の心にダイレクトに伝わるからである。当時のセットと撮影技術は、コンピュータやグラフィックスを駆使した現在のものと比べて比較にならないほど低いはずである。しかし、それにもかかわらず、不思議と黒沢明監督の映画は心に残り、一つ一つのシーンが脳裏に焼きつく。それはまさに、技術を越えた何かが存在している証拠である。同じことが、研究成果にも言える。人の心に残り、感動を与える論文は、評価され後世に残る可能性が高く、その著者に名誉という幸運もたらされることになる。場合によっては、膨大な研究費と高いポジションが得られることもある。

私は運についてしばしば考えてきた。それは、まさに運が人生の中で重要な要素であると考えからである。運は決して人任せ、風任せにするのではなく、自分で積極的につかむものではないかと思われる。運に翻弄されるのではなく、運をコントロールできるようになった人が、幸運の女神に好かれ成功者になれるのではないかと最近考えるにいたっている。

広岡博之

Welcome to 畜資～ゲストヘインタビュー～

7月23日から2週間、畜産草地研究所(那須研究拠点)の小林良次主任研究員が、当研究室で共同研究のために滞在されました。小林さんの現在のお仕事は、家畜飼料としてのトウモロコシ・アルファルファ輪作体系の研究をされており、省力的かつ高品質の飼料生産とその体系内の資源循環(N、K)モデルの構築を目標とされています。そんな小林さんに直撃インタビューを試みました。

—どうやって畜資をお知りになったんですか？

(小林氏)あるプロジェクトで広岡先生と一緒したときに、資源循環の研究をされているとお聞きしたのがきっかけです。私の仕事内容やら、ここでの研究計画は、まとめたもの(研究員計画書)があるのでそれを見てもらえると早いんですよ～

—では、堅い話は、計画書を拝見させていただくことにして、早速ですが、プライベートな質問をさせていただきます(笑)。ご出身はどちらですか？

(小林氏)大阪の島本町、阪急で言うと水無瀬、JR山崎のあたりです。

—サントリー山崎蒸留所のあるところですね！ご家族は？

(小林氏)那須に嫁と三人の子供(女・男・男)と犬が1匹います。多いんですよえ…犬がねえ大変で…人間優先で世話しますからねえ…

—お子さんはおいくつですか？

8・4・0歳です。

—次に、趣味についてお聞かせ下さい。

(小林氏)ん～、今のところないですかね～最近では家族中心で。本読むのは元々好きなんですがねえ…あ、スキューバやっていましたよ。そこで嫁を見つけました♪ゴルフの道具は持っています。テニスも少しやっていました。高校時代はバスケット部で、学生時代はアメフトもやっていた、熊大のほうで時々コーチに借り出されたりしていましたね。最近では、虫取りとか散歩ですね散歩。

—好きな食べ物は何ですか？

(小林氏)こうして外に出たときにカレーとかラーメンとか牛丼とか体に悪そうなものを食べるのが楽しみですね。いつも家ではちゃんとした物食べさせてもらってありがたいんですが、ラーメンの、なんかギトギトしたのって美味いじゃないですか。カップラーメンとかもね。

—お酒は…？

(小林氏)あんまり飲まないですね。適当にごまかして…

—では、歓送迎会楽しみにしていますね～。

(後日談)この数日後、小林さんはバドミントン、キャッチボール、飲み会などなど…お仕事以外にも研究室のみんなと大いに盛り上がりました。最後に畜資のみんなへメッセージを頂きました！



畜産資源学分野の皆様

短い期間でしたが、皆様にはたいへん良くして頂きました。ありがとうございました。

研究については、最初から自力でやれば何年もかかる仕事を非常に短期間でこなすことができました。懇切丁寧なご指導の賜と感謝しております。11月末にもう1回お邪魔する時には、少しは自分なりの勉強も積み重ねておきたいと思っています。

研究と同等に価値が大きかったのは、飲み会やキャッチボールです。課題の性格上、パソコンに向かってばかりでしたから、これらが無くては、流動研究の価値も半減だったかも知れません。元々私は、職場でも家畜や機械、調製等の異分野の人達と同じ研究チームに属しています。畜産の全体を見られることを、常々プラスに感じていましたが、そこへ今回、輪をかけて異分野で多様な研究をされている皆様と知り合うことができました。この幸運をなんとか仕事のステップアップにつなげたいと思っています。さらには、研究上のキャッチボールをもっと密にし、お互いに益々発展することができれば、とも考えています。

大学院の入試、論文作成、海外出張など大仕事を控えた方が多いようですが、成功をお祈りしています。また時節柄夏バテなどされぬようご自愛下さい。

秋にまたお会いできるのを楽しみにしております。

独立行政法人 農業・食品産業技術総合研究機構
畜産草地研究所
飼料調製給与研究チーム
主任研究員 小林 良次

研究紹介⑤～山羊実験(亜鉛編)～

7月中旬から3頭の山羊が実験に入っています。現在実験を行っているのは、動物栄養科学研究室の服部領太氏(M2)。そこで、服部さんに実験の紹介をして頂きました。

ただいま紹介に与りました、動物栄養科学研究室所属の服部です。今、私が行っている試験は「ヤギにおける亜鉛代謝」を調べるといものです。簡単に説明をしますと、餌として与えた中に含まれている亜鉛がどの程度吸収されてヤギの生体内で利用されるのかを調べる試験です。当然食べて吸収されなかったものは糞という形で出てきます。摂取した量から糞中に排泄された量の差、これが吸収量なのです。しかしこれは「見かけの吸収」でしかありません。なぜならば、排泄されたものには食餌由来のものだけでなく消化管内に分泌されたなどの内因性のもも含まれているからです。それら内因性のもを差し引いたものが「真の吸収」です。今回は特別な亜鉛を餌として用いることで、排泄された亜鉛

を食餌性と内因性と区別可能にし、真の吸収を求めます。まとめるとこんなところですかね。やっていることは単純で、今は餌をあげて糞を回収する、そんな日々を送っています。実験を始める際に、「愛をもって接してあげてください」との言葉と共に畜資の方からこのヤギさん達を預からさせていただいた



のですが、何せヤギを扱うのは初めてのことで、愛だけではどうにもならないこともあるということに改めて痛感させられています。とんだわがままジュリエットです。でも、この苦勞が大きいほど得られるものもきっと大きい、そう信じて今日

も深夜3時に糞回収へと畜舎に向かうのです・・・。

暑氣払いと歓送迎会

毎年恒例の畜産資源暑氣払い。今年も安愚楽牧場からお取り寄せした高級牛肉で、すき焼きパーティーとなりました。今回は、7月29日をもって当研究室から広島大学へ戻ることになった留学生のフランスさんの送別会と、2週間の滞在予定で共同研究をされる畜草研の小林さん(紹介ページ参照)の歓迎会を併せた催しと



なりました。お肉が食べられないフランスさんのために、たこ焼き(タコなし)もご用意。お中元で戴いた冷酒や焼酎で、酒代もセービング！

会の始まりには、広岡先生のお言葉と熊谷先生の乾杯の音頭につき、研究室のみんなからフランスさんへ心のこもったメッセージアルバムと京大オリジナルグッズのプレゼントが



記念に贈られました。フランスさんから、様々な思い出と感謝の気持ちが述べられ、涙をこらえるのが精一杯な様子でした。広島大学でも大いにご活躍くださいね！

さて、そんな感動もつかの間、みんなの注目は高級牛肉へ・・・鍋奉行熊谷先生の采配により、牛肉は見る見るうちにみんなの胃袋へ収納されました。毎回好評のたこ焼きもいろいろなバリエーションを揃え、お腹いっぱい！皆さんサラダも食べましょうね・・・



さあ、栄養もたっぷりと蓄えました。これで夏バテの心配もありませんね！

～お誕生日会～

今回のお誕生日会は、手作りのチーズケーキとチョコレートケーキで、大石先生、レニンさん、田島君の3人をお祝いしました！大石先生とレニンさんが二人で協力してろうそくを吹き消していたのが印象的でしたね。さらに素敵な1年になりますようにお祈りしています！



Department of Animal Husbandry
Resources, Kyoto University,
Faculty of Agriculture
Oiwakekyo, Kitashirakawa,
Sakyo-ku Kyoto 606-8502 Japan

電話 075(753)6365
FAX 075(753)6365
http://www.animprod.kais.kyoto-u.ac.jp/

GOAT BULLETIN



GOAT BULLETINは、皆様の投稿記事で成り立っています。形式・文字数は問いません。また、読者の方々からのご意見やお問い合わせも受付中です。下記のアドレスまで送信してください。

E-mail: yoko3t@kais.kyoto-u.ac.jp

お知らせ

今月のゼミはありません。広岡先生より『学生諸君もこれまでがんばって研究に励んでいたのに、休暇を2週間前後とっていいのではないかと思います。畜産資源はヨーロッパ的であってもいいのではないかと思います。なお、その際は連絡だけは取れるようお願いいたします。』というメッセージが届いています。休むときはしっかり休んで充電し、次に備えましょう！

今月のお誕生日会

今月のお誕生日さんは、西尾君（8月3日）です。お題は、チョコレートケーキです。お誕生日会は、8月9日（木）15：00からを予定しています。お楽しみイベント係



病気の発生とその後の経緯について

当研究室で飼養してきた山羊のうち、2頭に届出伝染病の発生が疑われ、家畜衛生保健所の検査により確認、8月6日に淘汰されました。

2007年 8月の飼育当番表

日	月	火	水	木	金	土
29	30	31	1	2 服部・金島 体重測定	3	4
5	6	7	8	9 熊谷・竹内・児嶋 体重測定・予防注射	10	11
12	13	14	15	16 田端・レニン 体重測定	17	18
19	20	21	22	23 金島・椎野 体重測定・予防注射	24	25
26	27	28	29	30 大石・西尾 体重測定	31	9/1

編集後記

先日、2年ぶりに血液検査をしました。心配していた肝機能も問題なく(^^;)、中性脂肪・コレステロールも異常無しで、ほんとひと安心。これも野菜中心の食生活の賜物かなと思っています。先月号のTarzanは『野菜・果物があなたを救う!』という魅力的なテーマで、スポーツクラブでウォーキングしながら一気に読んでしまいました。この猛暑に負けないう野菜・果物パワーで夏を乗り切りましょう！